

家庭叢話 (承前)

光 藤 ふ で

○母親の子供に侮られぬ

工夫が大事

一體子供といふものは、新しい世界に生れ出で、その受ける教育も自然新しいのであります。子供が學校で習得する事、幼稚園の仕事皆今日新しい方を取つて居りますが、母親の方はと見ますれば、若い母様は兎も角少し年寄りし母様は、十年一昔といふ其の昔時に受けた教育が、思想の根となつて居ります、そこで親の方からは子供の習ふ事其の他すべてが目新しい見えます、子供の方からは母様は時代の變遷で今日我々のする事には餘り明くないのであるのが一から十まで偉い方だとは見えません、只限りなき慈愛深き母親は慕ふに違ありません、種々の經驗を踏み來りし母様は偉いものと思ふて居るに違ありませんが、其の慕ふ母

親、偉いと信頼せる母様丈に若し子供が知りて母親が御存じないといふ様な事柄が、一度や二度ならば兎も角有形に無形に常にあらはれますならば、賢い子供はすぐに母様を輕侮するの念を萌します、母様を輕侮するの念が段々強うなりますと、其の命令訓戒が餘り奏功しないのであります、其の命令訓戒が奏功しない様であれば、時に或は子供の一生涯を誤る様な事が起り易いのであります、だから子供を持てる母親は、常に子供の境遇を知悉して、其の質問に應じ、子供の心事を察して之れに同情するといふ事をつとめなければなりません、幼少な頃は兎も角少し生長いたしました子供は學ぶ學科は六ヶしくなるに連れて、母親と知識上の隔が出来て來ます、そこで生意氣盛りの少年、日を追ふて進む自己の智徳に比べて、日を追ふて後退りする母様を見るときに、之を侮蔑の眼を以て見るに至るは、止を得ない事と存じます勿論家庭でも學校でも徳育に重きをおいて、修身

の時間や其他事ある毎に、よく話して聞かせはいたしますが、如何せん、子供心に起る輕侮の念は申々に口を酸くして言ひきかせた位で、奏功するものではありません、只之を防ぐは、母親が常に餘暇を見出して、新智識を得るの必要ある事を思ひます、子供がいかどの見識が出来るまでは母親は常に細心に注意を怠らないで時勢に遅れぬ様、或は雜誌に或は新刊書に、或は新紙に或は智徳高い人に就ての談話を聞き、時勢に後れぬといふ心掛が大切であります。今一つ母親が子供に輕侮され易いのは、子供に對して一般の母様の小言が多い故でありますまいか、マゝ大抵な母様が朝から晩まで、子供を見て居られるは宜しいが、子供の善行を賞するといふより、子供の惡戯に對して小言の多い事であります、中には惡戯のみではありません、御自分の勝手のわるい事に對して餘りに小言が多い故であります、それは四五人のおいたざかりの子供を持ちながら家事を治め機といたし

ますと、それ障子を破つた、それ簞笥に上つた、ソレ床に上つた、ソレ火鉢を引くりかへす、皆小言の材料でないものではありません、そこでするがまゝに任せておきまして、一から十まで小言を申しますと、子供心にお母さんは小言をいふものと思ひ做して、其の數多い小言は何等の功をも奏しない様になります、そこで母親は常に小言を言はねばならぬ様な事を、させぬ工夫をしなければなりません、それは子供の遊戯に腐心して、子供をして、愉快な幸福なものにしてやらなければなりません、これは母親の注意一つにある事で、母親が何等の思慮もなく、子供は一人で遊ぶと打ちやらかして居ては勿論、小言の材料を作る事が多いのであります、餘り關涉して窮屈に遊ばせるのも素より害が多いのでありませうが、私はなるべく子供自身に計劃させる様仕向けて、餘り手を下さないで大體に注意して居りますと或る時は、兄弟姉妹學校ゴッコをして、長子が先生となり、他の

子を生徒としておもしろくやつて居る事もありま
す、或は姉妹打連れて、他家を訪問すとて私の室
へ姉は妹の手を引きながら御免遊ばせと叮嚀に挨拶
しながら入つて来る事も御座います、或は植物
園に遊ばんと庭園に出掛ける事も御座います、或
はお菓子など請求しますから與へますとお菓子屋
さんが出来て商賣の眞似事が出来、或はお前
が風儀が小常陸などと相撲の始まる事があります
或は兎を畜つておきますと、之を追廻して兎狩を
して遊ぶ事もあります、或はブランコをし、或は
勝負競争をやる事もあります、或は木登りをする
事もあります、其の木登りをする時、大きい子は
宜しいが小さな子は足が足りないのです、肩を爲て
と互に肩をかせるのであります、先日梅の木の下
で、四歳なる女子が誰れか肩をしてと申して居
りますと、大きな子は已に登りつくして誰れも居
りません、頻に肩をしてと申して居りますと、三
歳になる男児がマダヤット歩行き得らるゝ信サン

(子供の名)が肩をして上げやうと、小さい身體を
梅の木の下に、シャガンで、姉を乗せましたが、
重さに堪へられないで、痛い／＼と言ひながら、
尙其處を退かないで、姉をのせました、其の様子
の可憐なる、鍛練的なる、何ともいへない一種の
威に打たれました、矢張見るを友で、かゝる幼兒
でも皆大きな子のする事を見ては眞似て居るので
御座います、母親はこの千種萬態の遊戯の大綱を
握りて、其の心身に害ない限りは成丈彼等自身に
工夫させて、思ふまゝに遊ばせる方がよくはあり
ますまいか、斯様にいたしました、之が監視を怠
らなければ、マア子供は愉快に遊べます、そして
母の小言も少くなります、母の小言が少くおもし
ろく遊べる丈、子供は幸福なのであります、そし
て母親を侮る心などは起さない様になるのであり
ます。二。